



2024年度
年間聖句

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。
これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケの信徒への手紙一 5章16節～18節

振り返ってみると

元 広島女学院中学高等学校 校長
勝部 禎文



中高を退職してから15年になります。広島女学院ではたくさんの貴重な経験をさせてもらいました。振り返ってみると、未熟な私は、生徒をはじめ多くの方々に支えられて、教員として34年間を過ごしたのです。同窓会からも多くの支援をいただきました。その中でも特に強く心に残っているのは、高校校舎建て替えの時のことです。

1964年東校地に建てられた高校校舎は、老朽化し、耐震基準の問題もあって、建て替えの必要が生じましたが、そのとき、たまたま私が校長でした。当初、学院の事務局から新高校校舎に関して示された案は、今は駐車場になっている寄宿舎の跡地に仮校舎を建てて、旧校舎を半分ずつ解体し、段階的に解体した跡地に新校舎を建てるというものでした。

中高で案を検討する中で、仮校舎で授業をしながら高3を送り出すことや、手狭な東校地で解体や建て替えの工事が行われると、中学生も含めて生徒たちの学校生活に大きな支障が出るのではないかなどの懸念が生まれてきました。折しも2006年に上空通路が完成し、東西校地間を安全に行き来できるようになり、生徒にとって西校地に新校舎を建てるのが最もよいのではないかということになりました。中高から、新校舎を西校地に建設してほしいという要望を理事会に出し、理事会もその方向で動いてくださいました。

一方で、西校地に建てることにも大きな問題がありました。西校地では、グラウンドの確保や外を通る車の騒音などを考慮すると、必然的に校地の北側に建てることになり、その場所にある原爆犠牲者の碑をどうするのかという問題です。碑の移設というのは、軽々しくできるものではありません。当然のことながら、碑と関係の深い同窓会からも強い反対がありました。しかし、話し合いを重ねる中で、同窓会は古屋由利子会長(当時)のもと、生徒のためならばということ移設を認めてくださり、東校地の今の場所に移設したのです。

2009年に西校地に新校舎は竣工しました。私は、その前に碑の移設があったということを忘れることができません。

2024年度全国代表者会議

2024年度全国代表者会議が4月19日(金)午前11時半より中学チャペルで開催された。竹内会長の開催挨拶後、礼拝、永眠者への黙祷。出席者は各ブロック長、支部長、広島県内の各地区長、本部幹事、事務局の45名。議事は書記が2023年度事業報告を、会計が2023年度会計報告を行い承認。2024年度事業計画は書記が、2024年度予算は会計が提案してそれぞれ承認された。

本部幹事	就任	新幹事 功野 由紀子(高22)	退任	山口 曜子
		名誉幹事 野村 久子(高女52専保2)		
地区長交代	就任	香川・徳島支部長 武田 純子(高22)	退任	有岡 公子
		呉地区長 数田 恵美子(高28短27)		小島 敬子 山根 眞理(島根支部長) 村上 美鈴(尾道地区長)

2023年度 収支決算書

自2023年4月1日 至2024年3月31日 広島女学院同窓会 2024年3月31日作成(単位:円)

収入の部	科目	2023年度予算	2023年度決算
収入の部	同窓会会費	6,915,000	6,765,000
	大学 15,000円×254	4,005,000	3,810,000
	高校 15,000円×196	2,910,000	2,940,000
	会友	0	15,000
	事業収入	1,000,000	1,512,382
	グッズ販売	800,000	1,160,500
	バザー	200,000	351,882
	雑収入	0	57,524
	受取利息	0	98
	寄付金	0	708,504
	前年度より繰越金	14,572,386	14,572,386
	合計	22,487,386	23,615,894

支出の部	科目	2023年度予算	2023年度決算
支出の部	事務費	2,330,000	1,693,292
	消耗品費	300,000	329,018
	備品費	1,000,000	334,274
	人件費	1,030,000	1,030,000
	事業費	3,110,000	2,771,737
	全国代表者会議費	800,000	748,188
	宗教委員会費	130,000	89,000
	事業委員会費	410,000	395,880
	バザー委員会費	100,000	19,675
	同窓会報編集委員会費	1,400,000	1,265,162
	学年幹事・名簿委員会費	170,000	153,832
	ホームカミングデー補助費	100,000	100,000
	母校支援費	1,900,000	1,819,000
	アイリスセンター維持費	600,000	600,000
	ゲース奨学金	800,000	800,000
	卒業証書カバー補助	500,000	419,000
	通信費	160,000	80,646
	電話料	100,000	46,266
	郵税	60,000	34,380
	旅費交通費	550,000	579,720
	同窓会館運営費	460,000	170,117
	設備費	300,000	20,800
	水道・光熱費	140,000	134,279
	消耗品等	20,000	15,038
	慶弔費	200,000	59,215
	寄付	500,000	37,950
	雑費	500,000	484,674
	予備費	200,000	0
	同窓会100年史制作費	3,000,000	3,619,000
	平和祈念式口座へ繰入	50,000	50,000
	基本金引当資産へ繰入	0	0
	(小計)	12,960,000	11,365,351
	次年度へ繰越	9,527,386	12,250,543
合計	22,487,386	23,615,894	

2024年度 年間行事予定

6月7日(金)	岡山支部会 欧風レストラン巴
6月9日(日)	鳥取支部会 鳥取市しいたけ会館 対翠閣
6月15日(土)	山口支部東部地区会 錦月堂本舗
6月15日(土)	愛媛・高知支部会 ANAクラウンホテル松山
6月29日(土)	東京支部 あやめ会 北区王子 北とびあ → 渋沢資料館
6月29日(土)	賀茂地区会 KURARA Cafe ソラオト
7月6日(土)	関東ブロック主催(埼玉支部担当) 「夏雲の集い」 礼拝後 映画「夏雲」上映予定 王子教会
8月6日(火)	広島女学院平和祈念式
10月11日(金)	広島地区会 広島アンデルセン
10月19日(土)	福岡支部会 ホテルニューオータニ
10月26日(土)	中部ブロック「あやめ会」
10月27日(日)	香川・徳島支部会
10月	千葉支部会 川村記念美術館
11月3日(日・祝)	同窓会バザー(中高文化祭)
11月	同窓会バザー(大学あやめ祭)
11月	山口支部西部地区会
12月4日(水)	佐伯地区クリスマス会 ホテル広島サンプラザ
12月	千葉支部クリスマス礼拝
12月	同窓会クリスマス会(宗教委員会)
奇数月 第3水曜日	佐伯地区会
毎月 第4水曜日	バイブルクラス(8月は休会)

※詳しくは
広島女学院同窓会HPを
ご覧ください。

こちらから
アクセスいただけます



召天

謹んで哀悼の意を表します。

樹井 敦子(慶徳)	高25文日7	林 黎子(岡)	高8
秋本 鈴子(莊子)	高4	黒木 智子(吉本)	高16
斎藤 三那子(興梧)	高8	赤木 直美	高女55大英1
望月 久恵(伊木)	文英2	小林 加代(喜多村)	高12
中内 治子(崎上)	大英1	中野 哲子(田辺)	大英15
矢可部 哲子	高女48	屋 弘子(大西)	高6
古河 千賀子(福村)	短13	中村 滋子(荒田)	高12短11
若松 良子(林)	高23	守住 広子(佐田)	高女52
赤松 知子(森田)	高23	黒川 美弥子(竹内)	短5
本田 ハナミ	専家24	土屋 圭子(八林)	大英11
中井 ひとみ(中郎)	専家25	伊藤 恵子(久保)	高6
神田 サウエ(平井)	短6	鎌塚 寿恵子(山根)	高女52
楡山 律子(河野)	高女52	湯野川 幸子(前田)	高女56
梶下 史恵	生食3	寺園 久恵(石井)	高29
國原 幸子(梶川)	高13	牧野 典子(藤本)	高5
土井 瑞子(井村)	高6	末次 澄枝(長谷川)	高9
十川 響子(十川)	高5	清水 朱穂(宇根)	専被5短1
田中 玲子(宮脇)	専被1	本家 美江(高亀)	文英2
龍岡 恵美(津脇)	大英1	三戸 純子(小梨)	短3
上垣内 英世	高女47	辻 嘉恵(吉田)	高12短11
藤岡 純代(阿部)	高26短25	木原 貞子(井手口)	専被3
堤 満子(木原)	高29短28	夷石 ますみ(長谷)	文英1
栗田 静恵(波田)	高4	折海 寿美子(池田)	高4
正藤 幹枝(大和)	大英3		

2023年12月から2024年3月までにご逝去のお知らせをいただいた方々です。(敬称略)

寄付 2024年3月~4月

竹内路子 同窓会会長 600,000円	賀茂地区会 ……10,000円
大矢みどり様(高23) ……30,000円	匿名希望 ……30,000円
児玉君江様(高8) ……10,000円	匿名希望 ……10,000円



編集後記

「素敵な学校で学ばせてもらったんだあって、あらためて女学院と両親に感謝したのよ!」卒業して40年、初めてホームカミングデーに参加した友の言葉です。女学院で学んだ視点や視座、恩師や友の存在にこれまでどれだけ支えられたことでしょうか。今号に散りばめられた女学院スピリットの数々、その発揮こそが母校への返礼、母校を輝かす力になると信じて… 共に Chest up!



「広島女学院同窓会100年史」 発刊のお知らせ

2020年に創立100周年を迎えたことを記念し「100年史」を編修・発刊いたしました。
お問い合わせは、同窓会本部事務局まで。

前号にて「精神伝達式」で受け継がれてきたものは、
「我らは神と共に働く者なり」という精神であることをお伝えしました。
それでは、そのキリスト教精神のもと育まれた「女学院スピリット」は、今私たちの日常に、
どんな形でどのように息づいているのでしょうか。全国各支部同窓生や先生方にお聞きました。

Q:あなたにとっての女学院スピリットとは？

ちなみに、現在中学入学時に配布される「中一のためのガイドブック」には、広島女学院がめざすものとして、
1.自分の使命を見つけて生きる 2.神と共に生きる 3.隣人と共に生きる と書かれています。

人となり

信念を貫いて継続する
自由・闊達 Chest up (Chin up)
男女に関係なく人間としての自分である
聡明で優しく気遣いができる
明るく元気で前向きな気持ち
自分の言葉を持ち行動できる
人に寄り添える
新しいことに挑戦する気持ち
最後まで責任をもってことにあたる

三谷高康院長学長
平和を実現する多様な知性と敬虔性

CUM DEO LABORAMUS

～我らは神と共に働く者なり～

繋がり

母校への誇り
同窓生の絆

(全国各支部同窓生より)

渡辺信一中高校長
平和を実現する人になる

奉仕の心

誰かの役に立つ
困っている人に手をさしのべる
自然体の奉仕
報いを望まず他人に与えよ
一人でも良いことをすすんでやる
平和を願う心

だれもいなければ 私がやります
何事も底抜けに明るい 笑い声
なんとかする なんとかなる
人事を尽くして天命を待つ
私らしさを大切にする
本番に強い
(卒業生の先生方より)

「女学院スピリット」という一語に込められている意味や思いの、なんと様々であることでしょうか。でも一見バラバラに見えますが、よく目を凝らしてみると、そのすべては一本の糸で連なっているように思われるのです。

広島女学院元院長学長 片柳寛先生のご著書『永遠のあやめ～ゲーンズの娘たち』の中にこんな一節を見つけました。「することの大きい小さいに拘らず、心を尽くし精神を尽くして人のために愛の業を励む、そして決して傲慢でない。それがこの大学の学生諸君の美しい伝統です。(中略)『神と共に働く』とは『愛の業』を行うことです。」

「我らは神と共に働く者なり」という学院聖句と私たちがよく口にする「女学院スピリット」が、校歌にも謳われる「愛の業」という共通項で結ばれるとき、すべてが繋がってゆくのを感じます。戦いや災害に多くの人が生き惑う今、私たちはどんな愛の業に努め励むことができるのでしょうか。一人ひとりにそれぞれの答えがあるに違いありません。

東京支部 クリスマス会

12月16日(土) 銀座教会 参加者36名

東京支部のクリスマス会が執り行われた大礼拝堂では、高橋牧師より「地には平和」と題して、お説教をしていただきました。礼拝後は、教会内の別の部屋で懇親会を持つことができました。湊晶子先生もご臨席くださり、「広島を愛しています」というお言葉に参加者全員が感銘を受けたひと時でした。

白井 京子(高23文英5)



大阪支部より

この度支部の活動などを紹介するホームページを作成しました。本格的に始動して約半年、役員最年少の西川さんと共に悪戦苦闘の末なんとか形にすることができました。

仕事ではパソコンを日々使うもののWEBサイト構築については全くの素人の二人が、不具合が発生するたびにLINEや深夜の電話で相談をし、今年の支部だよりでのお披露目にこぎつけました。今後も同窓会員の皆様に色々な情報をお知らせしてまいります。

南方 香織
(高40文英22)



支部だより発送作業風景

<https://www.ayame-osaka.org>



福山支部より

久しぶりに福山の集まりを開催します。赤レンガ通りの異国情緒あふれるBritish Pubでランチタイムを楽しみましょう。皆様の参加をお待ちしております。

2024年9月21日(土) 11時半～
ケンジントン(福山市大黒町2-12)

申込先
三好 久美子(福山地区長)090-8600-3305
yoka344@mbv.biglobe.ne.jp

同窓会バザーのお知らせ

日時 2024年11月3日(日・祝) 10:00～
場所 ゲーンズホール前テント(バザー)

バザーのための献品を常時受け付けております。

お問い合わせ:
同窓会館 TEL/FAX (082) 221-1059

ヒロシマ 広島との出会いに想う



写真家
アートプロジェクト企画
石河 真理さん
(高34)

広島女学院の桜が春風に舞っている様子と、藤の花が陽光の影に揺れている姿に、何年経っても女学院中学・高校に通学していた頃の自分を想い出します。在学中はなぜか大きなこだわりを持ち、6年間礼拝委員をさせていただきました。卒業してからは広島を離れ、長い時を経て広島に戻り約10年が経ちました。

コロナ前まで橋本町で「ギャラリー交差」を運営しており、その頃出会った様々な方のご縁をいただき、アート関係のプロジェクトにも関わりながら、今もなお、日々自分の可能性を模索し続けています。

現在、写真家としてポートレート写真を中心に撮影していますが、ポートレートの核心部分を心から学ばせてもらったのは、坪井直さん(被団協)との出会いでした。その当時10年ほどニューヨークに住み、フリーのカメラマンとして日本の新聞や雑誌の撮影の仕事をしていましたが、広島を離れると、何ごともなく8月6日が過ぎていくことをとても不安に思い、坪井さんに初めて手紙を書きました。1995年にNYでNPT会議が開かれ、広島から坪井さんを含む多くの団体が渡米された時から被爆者の方の撮影をさせていただくようになりました。一枚の写真に入れてしまいがちなストーリーやカメラマンの技術を取り払い、

ご本人が発する本来の姿を率直にとらえること、そして、私自身が正直になって撮影すること、など当時の経験が私の写真に影響を与え、今でもその原点を大切にしています。

3年間作り続けてきた『ヒロシマの顔』(NPOアントヒロシマ発行)が今年1月に書籍となりました。全国の図書館に寄贈されています。本を手にとった子供たちに、まるで被爆証言の声が聞こえてくるように登場される方々の写真を大切に扱っていただいています。

毎年多くのアーティストが海外や国内からやってきて広島の地で作品を制作していきます。そんな中で出会ったのが、78年前に全米にヒロシマの事実を初めて発表した『HIROSHIMA』の著者ジョン・ハーシーの孫、キャノン・ハーシーが率いる「Ifuture」というアートプロジェクトです。当時ジョン・ハーシーが広島で出会った流川教会の谷本牧師の長女近藤紘子さん(平和活動家)にも、このプロジェクトを通して会いました。世代を超えて繋ぐという今私たちにできることを、歴史の中でアートと共に、仲間と共に、身近な人と人の繋がりが未知の大きな歩みとなることを信じて活動しています。

今年8月6日より、中区上八丁堀のギャラリーGで展覧会を予定しておりますので、ぜひお立ち寄りください。いつか女学院の中高生の皆さんとも世代を超えてお話ができたら嬉しいです。

→
石河 真理さんのサイト
「kosa-design」



2024年ホームカミングデー報告

ホームカミングデー実行委員長
大矢 みどり

新緑の溢れるさる4月20日、2024年ホームカミングデーを「輝くゆくて」というテーマのもと、222名の参加を得てリーガロイヤルホテル広島にて開催致しました。

始めに礼拝を持ち、三谷院長学長先生の考え深いメッセージを頂きました。乗松恵美さんの素晴らしい歌声と、松田亜希子さん上杉千枝さんの楽しい演奏、そしてクワイアアイリスの美しい合唱を聴き、改めて卒業生の活躍に感動いたしました。恩師の先生方や同窓生と心温まる会話をし、ゆったりとしたひと時を楽しむことができたのではないのでしょうか。

一年をかけて、実行委員それぞれが抱える事情の中で最善を尽くして準備し、開催できましたことを深く感謝しております。女学院の同窓生として私達一人ひとりが「輝くゆくて」を見つめ一歩を踏み出す一助になったのではないかと願っております。

ご尽力いただきました皆様に感謝申し上げますと共に、また来年のホームカミングデーで、皆様とお会いできることを心より楽しみにしております。



第19期同期会報告

昨年10月29日、ホテルグランヴィアで同期会を開きました。

今回の当番はE組(石原ホーム)でしたが、コロナ禍のため4年半ぶりの会となりました。

当日は33名が集まり懐かしい校歌、久しぶりのお祈りで始まり、二人の方のメッセージに学生時代に思いを馳せ、楽しい時間を過しました。団塊の世代ど真ん中の私達も後期高齢者になり、あと一度、2年後の喜寿の年の再会を約束して閉会しました。

中村 順子(高19)

求めよ、さらば与えられん



久保田 満里子さん
(高19)

私の75年間の人生を振り返ってみると、「求めよ、さらば与えられん」という聖書の言葉がびったりあてはまるようだ。色んな事にチャレンジし続ける事が、私のモットーになっている。

まず最初のチャレンジは、広島大学を受験したことだった。女に学歴はいらないと言う親を説き伏せて、広大だけ受験したのだが、合格した時はほっとした。

大学卒業後、名古屋市の中学校に社会科教師として就職した。その4年後、豪州に住む日本人女性を同僚から紹介され、豪州で日本語を教えたらどうかと言われ、その話に飛びついた。日本語教師になって、日豪の懸け橋になりたいと意欲に燃えて辞職。一人で観光ビザで渡豪。就職口は簡単には見つからなかったが、観光ビザの期限切れが迫った頃、ダメもとで応募した学校の校長から電報が届いた。明日面接に来いと言うのだが、手元には航空費もなく、銀行も閉まっている。諦めるしかないと思った時、たまたま遊びに来た友人が、その日もらったばかりの給料を全部貸してくれた。そして面接の結果、日本語教師として即座に採用された。ワーキングビザをもらいに移民局に行ったら、ちょうど特赦があり、永住権を取得。この時ほど、「求めよ、さらば与えられん」という言葉を実感したことはなかった。

その学校も2年で辞職し、大学で教えたくて、メルボルンのモナシュ大学で博士号を取得したが、8年かかった。メルボルン大学でフルタイムの仕事に就くと、子育ても重なって、論文を書く時間がなくなった。それでも諦めずに論文を仕上げた。

メルボルン大学を60歳で退職後に執筆活動を始めた。あふれ出る言葉をつづるのに夢中になったが、10年もたつと、だんだんアイデアも枯渇していった。そんな時、メルボルン大学で戦前日本語を教えた稲垣豪志の人生を書きたいと思い執筆。その後は、豪州に来て骨をうずめた日本人のことを書き伝える使命感に燃えて、豪州での米作の祖の妻の話、第二次大戦の戦争捕虜の話、戦争花嫁の話、真珠貝の潜水夫の話、サーカス団の女性の話などを書いている。

広島女学院は、多くの人との出会いを与えてくれた。初めて書いた小説をほめてくれ、励ましてくれたのは女学院時代の同級生だった。取材では、後輩だというだけで、初対面の私に、つらかった原爆体験を話してくれた人もいた。

広島女学院からは、この紙面では書ききれないほどの恩恵を受けており、感謝の限りである。

広島女学院は、多くの人との出会いを与えてくれた。初めて書いた小説をほめてくれ、励ましてくれたのは女学院時代の同級生だった。取材では、後輩だというだけで、初対面の私に、つらかった原爆体験を話してくれた人もいた。

広島女学院からは、この紙面では書ききれないほどの恩恵を受けており、感謝の限りである。

プロフィール

26歳で渡豪。高校で2年日本語を教えた後、モナシュ大学で「メルボルンの日本人の子供たちの言語問題」で修士号、「複合動詞の研究」で博士号を取得。その間、スインバン工科大学、メルボルン大学で計21年間日本語講師として勤務。著書に「短編小説集 オーストラリア、メルボルン発」、「豪志とローズ」「豪州米作の祖の妻 高須賀イチコの物語」など。現在ビクトリア日本クラブのニューズレターとウェブ情報サイト「GO 豪メルボルン」に小説を掲載し続けている。

支部会だより

埼玉支部会

10月18日(水) 与野公園とジャルダンドヨ 参加者11名

お天気も良く爽やかな秋晴れの日、ゆつくり園内を散策をして色とりどりの秋薔薇を鑑賞し、公園そばのレストランで昼食会。「ミステリという勿れ」の映画中で広島の“今”を見ることができると、色々な情報交換をしました。

同窓生松尾たいこ(短33)さんの「平和への祈りを形に!」プロジェクトの短冊のメッセージを書いたり、久しぶりにお会いできた方もいらして、心地よい穏やかなひとときを過ごした一日でした。

清水 敬子
(短17)



鹿児島支部会

12月17日(日) シェラトン鹿児島 参加者5名

風光明媚な錦江湾や、その向こうにそびえる雄大な桜島の絶景と共に、美味しい食事を堪能しました。

お互いの近況報告など和やかに会話が弾み、瞬間に楽しい時間が過ぎました。

多方面にご活躍の支部会員同士、これからも芸術鑑賞や季節行事などお互いに声を掛け合い親睦を深めていきましょと、次回の集まりを早くも楽しみにしてお開きとなりました。

市来 真樹子
(高44)



関西ブロック クリスマス礼拝 (大阪支部担当)

12月2日(土) 大阪東十三教会 参加者23名

コロナが5類に移行して初めてのクリスマス礼拝。昨年より多くの皆様に関西各地や、遠くドイツからご参加いただきました。まだ礼拝後のティーパーティは開けないながら、少しずつコロナ禍前の状況に戻ってきたのを感じました。

礼拝では岡本寿吉牧師に「占星術の学者たちが訪れる」というタイトルでメッセージを頂きました。毎年、教会のご好意で集うことができる事に感謝しつつ、鹿野幸枝さん(高12)のオルガンの調べに合わせて懐かしい賛美歌を歌い、穏やかな祈りのひとときを過ごしました。

宮崎 能子
(高33)



咲き始めの桜が初々しい4月2日の午後、「広島女学院観桜会」が高校校舎の会議室で開催されました。この会に参加してこられた児玉君江先生(高8・元養護教諭)に趣のあるアイリスセンター1階のお茶室でお話を伺いました。

Q観桜会は今年で47回目と
のことですが、生徒の演奏
や合唱、お点前で春のひと
時を楽しんでいただく素敵な
行事ですね。

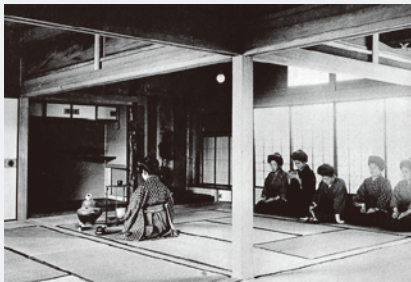
——この会は、日頃から生徒た
ちが登下校でお世話になって
いるご近所の方々や退職された
先生方への感謝、また新しい先生方へご挨拶の気持ちを込めて開か
れる学校行事だと聞いています。茶道部が観桜会に参加するようにな
ったのは、「立礼卓」を購入してからで、今年で14年目になります。



2024年観桜会 立礼卓

Q茶道部の歴史は女学院創立の頃にさかのぼるとお聞きしま
したが…

——私の前任の若山先生に伺った話では、女学院が学校として文
部省の認可を受けるために、お若い頃のゲンス先生が日本人教師
を伴って、縮景園近くにお住まいだった宗像先生(若山先生のおばあ
さま)を訪れ、お茶・お
花・作法を教えてほしい
と要請されたとの事だ
す。そして1906年(明治
39年)から作法の教授
が始まったようです。初
代の宗像先生が亡くな
られた後はその娘の富
恵さん、そしてお孫さん



明治44年お茶の稽古(創立80周年記念写真集)

長時間のインタビューの間、脚がしびれて何度も座りなおした私たちでしたが、先生はずっと正座し続け、ピンと背筋を伸ばしてお話してくださいました。本当にありがとうございました。

の若山先生が、明治～大正～昭和～平成と3代に亘って指導に当た
られました。生徒だった頃の広瀬ハマ子元院長先生も指導を受け
られたそうです。若山先生の要請を受けて私がコーチとなり26年が経ち
ました。

Q茶道部は「ゲンス先生から始まった」と言っても過言ではないの
ですね。茶道部の活動は文化祭での「お茶会」が中心ですが、8
月6日の平和祈念式ではお献茶もされていますね。

——1953年(昭和28年)に大学の牛田校地に建てられた原爆慰霊
碑が1991年(平成3年)上職町西校地に移転した時からです。原爆
で犠牲となった先輩方や先生方に慰霊の祈りの気持ちを表したいと
願って始めました。

Q生徒たちを指導する時に心がけておられるのはどんなことでは
うか?

——茶道は、「亭主は最善を尽くしてもてなし、客はその心を受け取
る」という心構えです。お点前とお作法などの決まり事を通して、茶道の
言葉でいう「和敬」の心を学ぶことを大切にしています。イエス様がおっ
しゃった「わたしの兄弟である」これらの最も小さい者のひとりにしたの
は、すなわち、わたしにしたのである」という聖書の言葉に通じる精神だ
と思います。

Qこれまでを振り返って、今どんなことを感じておられますか?

——出会いとは不思議なものです。自分の過去を振り返っても、女学院
での養護教諭時代に出会った先生方や生徒たち、聖書や茶道との出
会いなど、あらゆる出会いや人との繋がりに感謝していますし、そのすべて
の経験が私の宝物です。

千葉支部 クリスマス礼拝

12月4日(月) 新津田沼教会 参加者14人

広島女学院同窓会の礼拝という事で、先ず
牧師先生が湊晶子先生に逢われた事を話題
にされました。湊先生は、教会、聖書、祈りを人
生の支えにされているという事でした。

説教では、「クリスマスは私を強めて下さる
方、即ちイエス様の誕生を喜ぶ日です」と強調
されました。改めて、女学院でキリスト教に出
会った意味を考える時間になりました。今回83
才で初出席の方があり、支部で礼拝を続ける
意義を感じま

村中 陽子
(高27文英9)



佐伯地区 クリスマス会

12月6日(水) ホテル広島サンプラザ 参加者20名

冬空にもかかわらず快晴のお天気で皆様のお顔
がとても爽やかでした。今回は5人の初参加の方と共
に和やかなひと時を持つことができました。

賛美礼拝ではピアノが堪能な方のお蔭で前奏
パッサ「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」、後奏パッサ
「主よ、人の望みの喜びよ」、そして賛美歌の伴奏と
豊かな礼拝となりました。

親睦会では美味しい料理と共に、先輩後輩の区
別なく様々なお話が飛び交い、同窓生の善き交わりを
感じる幸せな日となりました。ピアノ伴奏で校
歌を高らかに歌い喜び
の祝祭を終えました。

森 静子(文英1)



神奈川支部 クリスマス会

12月8日(金) 藤沢教会 参加者20名

神奈川支部では、毎年黒田直人牧師のお
話と尚子夫人(高31)のオルガン演奏によるクリ
スマス会を行っています。

今年は、礼拝の後にみんなでクリスマスにちな
んだ歌を歌いました。中学生だった頃みんなで
賛美歌の合唱練習をしたことを懐かしく思い出
しながら、クリスマスの祝福に心温かく満たされ、
楽しいひとときを過ごすことができました。

陣崎 佳子(高29)

